



落ちる陽と摩り替わる闇から生まれた邂逅は、  
西に俯く夏の大輪の様な落莫の灰燼。

鳥有の揺籃で宇宙を揺蕩う青いlonely-planet . . .  
怪力乱心の波動共鳴の形而上で、  
Moon-dustに踊らされる形骸のmarionette。

黒い茫洋の海でキミの名を呼ぶ。  
気が付けばこんなに好きで。

キミの笑い声が宿るこのRoomで、  
在りもしない絵空事抱いてた。  
懐音の錯憶 . . . 死のリズムで。

亡霊の水脈がまだ流れる暗渠で、  
純朴な玉響の生命。

淘汰の風が吹く背馳のballad。  
厭世のモラトリアムは紛い物で。

隋道の涯はcynicalな碧で投げ捨てた僻歌。  
One who stood at a cape . . .